

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	基本介護技術(Basic Skills of Nursing Care)	授業コード	E010751
担当教員名	姫嶋 良子、藤沢 紀美子、鶴田 登志子		
配当学年	2	開講期	後期集中
必修・選択区分	選択	単位数	1
履修上の注意または履修条件	受講生と体験を共有し、介護技術の復習はその日のうちに行う必要があります。		
受講心得	研修の機会を効果的なものとするためには、それなりの心の準備が必要です。介護職員には、「基礎的な介護を実践する力量」が求められています。介護の原理原則をていねいに学び、自分を育てる出発点であることを自覚してください。		
教科書	ホームヘルパー講座2級課程 介護労働安定センターホームヘルパー2級		
参考文献及び指定図書	随時紹介します。		
関連科目	訪問介護論A, 訪問介護論B, 介護実習		

授業の目的	介護の目的、機能及び展開過程を理解し、学内で習得した知識と介護技術について、老人福祉施設、身体障害厚生援護施設、児童福祉施設または老人保健施設において、利用者が求めている日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に各種の介護を助ける住宅設備機器や福祉用具の知識と活力を養います。また、実習指導者の指導を受けながら介護計画の立て方や記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養います。
授業の概要	介護職員初任者研修のカリキュラムに沿い、高齢者・障がい者を支援する際に求められる知識・態度・技術の習得を行う

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：介護課程の基礎的理解① ①介護過程の目的・意義・展開について、②介護過程とチームアプローチについて	
第2週：介護課程の基礎的理解② ①介護過程の目的・意義・展開について、②介護過程とチームアプローチについて	
第3週：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護① ①食事に関する基礎知識について、②食事環境の整備・職に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみについて、③楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、④食事と社会参加の留意点と支援について	
第4週：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護② ①食事に関する基礎知識について、②食事環境の整備・職に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみについて、③楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、④食事と社会参加の留意点と支援について	
第5週：整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護① ①整容に関する基礎知識について、②整容の支援技術について	
第6週：整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護② ①整容に関する基礎知識について、②整容の支援技術について	
第7週：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護① ①入浴、清潔保持に関連した基礎知識について、②さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について、③楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法	
第8週：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護②	

①入浴、清潔保持に関連した基礎知識について、②さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について、③楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
第9週：排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護①		
①排泄に関する基礎知識について、②さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について、③爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
第10週：排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護②		
①排泄に関する基礎知識について、②さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について、③爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
第11週：総合生活支援技術演習①		
①生活の各場面での介護について、②ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供するながれの理解と技術の習得、③利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得		
第12週：総合生活支援技術演習②		
①生活の各場面での介護について、②ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供するながれの理解と技術の習得、③利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得		
第13週：振り返り		
①研修を通して学んだこと、②今後継続して学ぶべきこと、③根拠に基づく介護についての要点について		
第14週：就業への備えと研修修了後における継続的な研修		
①継続的に学ぶべきこと、②研修終了後における継続的な研修について		
第15週：修了試験・評価		
介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級資格相当)修了に必要な修了試験を行います。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考	講師の都合により、講義内容が変更になる場合があります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	在宅、施設のいずれの場合であっても、利用者の生活の拠点に共に居るという意識を持って、介護を行うことができる。
【知識・理解】	介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について説明することができる
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		25点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		50点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	講義終了後のレポート等をもとに総合的に判断します。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
発表・その他 (無形成果)	